

# 事業案内



# 青梅庁舎の概要

## 組織図



## 組織

### 青梅畜産センター

東京ブランド畜産物の種畜維持を担う

- 種畜種鶏の系統維持及び血統管理
- 畜産農家等への種畜・ひなの配付及び技術指導
- 畜産物の生産拡大及び消費拡大のための支援
- 畜産への理解を深めるための活動

DETAIL



### 有機農業堆肥センター

優良な堆肥を生産し環境保全型農業の推進に貢献する

- 優良堆肥の生産販売
- 都内畜産農家等への堆肥生産技術の普及
- 循環型社会・環境保全型農業等についての情報提供

DETAIL



### 農林総合研究センター 畜産技術科

試験研究による技術開発で東京の畜産の基礎を支える

- 畜産の生産性向上技術の開発
- 高収益型経営を支えるブランド畜産物の品質確保、高付加価値化
- 畜産環境問題を低コストかつ効率的に解決する技術開発

DETAIL



## 沿 革

|              |  |
|--------------|--|
| 1920年(大正9年)  | 東京府立種畜場を設立(日野市)  |
| 1924年(大正13年) | 東京府立種畜場が立川市に移転(東京府立農事試験場併設)                                    |
| 1949年(昭和24年) | 東京都種畜場が青梅市に移転  |
| 1964年(昭和39年) | 東京都種畜場を東京都畜産試験場に改称 試験研究業務を開始する                                 |
| 1971年(昭和46年) | 「東京しゃも」の研究を開始する  |
| 1982年(昭和57年) | 「東京しゃも」の交配様式が確立する  |
| 1984年(昭和59年) | 「東京しゃも」という名称が正式に決定する   |
| 1990年(平成2年)  | 「トウキョウX」の研究を開始する   |
| 1991年(平成3年)  | 「東京うこっけい」の研究を開始する  |
| 1994年(平成6年)  | 東京都有機農業堆肥センターを設置   |
| 1997年(平成9年)  | 「トウキョウX」が日本初の合成系統豚として認定される                                     |
| 1998年(平成10年) | 「東京うこっけい」の系統が確立する  |
| 2003年(平成15年) | 「東京うこっけい」が第10世代に到達<br>産卵数が改良前(年間50~80個程度)から年間190個程度に向上する       |
| 2005年(平成17年) | 東京都畜産試験場が(財)東京都農林水産振興財団に統合<br>研究部門は農林総合研究センター、事業部門は青梅畜産センターに改組 |
| 2010年(平成22年) | (財)東京都農林水産振興財団が公益財団法人へ移行                                       |
| 2019年(令和元年)  | 鶏舎、豚舎再編整備工事開始  |
| 2021年(令和3年)  | 新鶏舎、新豚舎竣工  |



東京しゃも



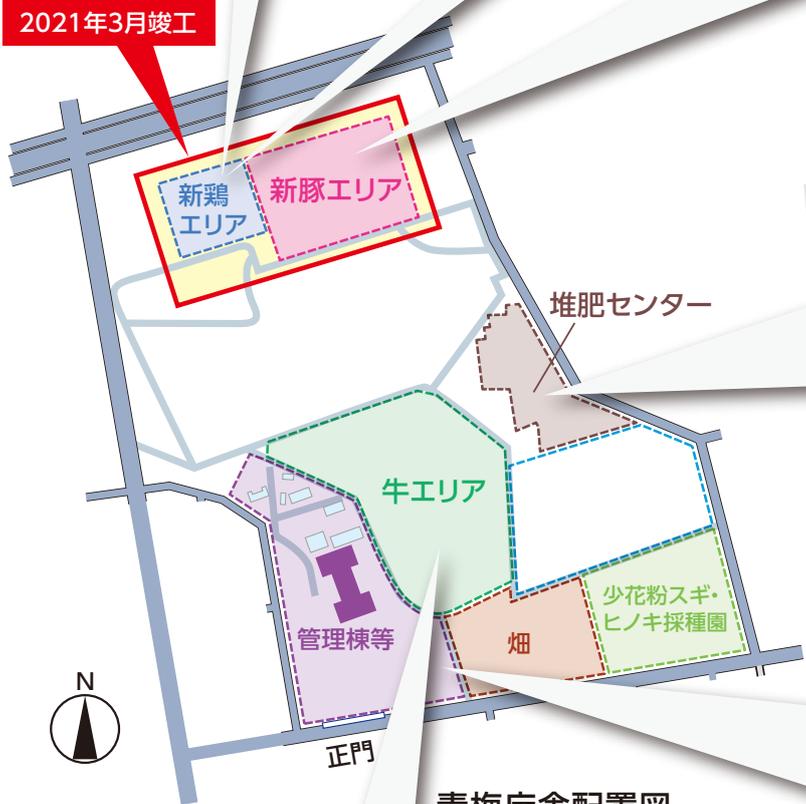
東京うこっけい



トウキョウX



2021年3月竣工



青梅庁舎配置図

とうきょう元気堆肥



畜産の普及啓発活動



試験研究



## 東京しゃも



### 生産品の特徴

東京しゃもの肉は、軍鶏肉独特の**歯ごたえ**や**香り**を有します。また肉の**赤みが濃く**、**低脂肪**、**高蛋白質**で、調理による**肉汁の損失が少ない**のが特徴です。



東京しゃも精肉

## 東京うこっけい



### 生産品の特徴

烏骨鶏卵は一般の鶏卵と比べて小さい一方、黄身の比率が大きく、**鉄**や**ビタミンA**が豊富です。

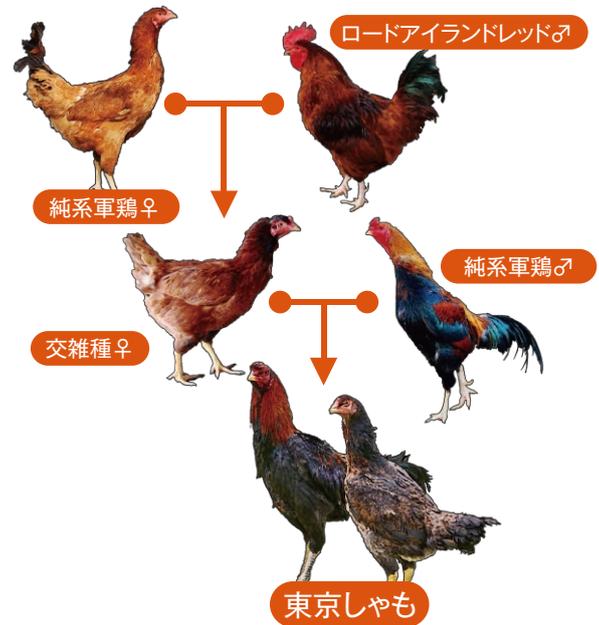


東京うこっけい卵



### 開発と維持管理

東京しゃもは、江戸時代から庶民に親しまれてきた軍鶏肉の復活を目指し開発されました。純系軍鶏を2度掛け合わせることで、軍鶏独特の食味を残しつつ、生産能力を高めています。



### 開発と維持管理

烏骨鶏は古来から薬膳料理や漢方薬の素材として利用されてきました。

しかしその産卵数は年間約50~80個と少なく、養鶏農家の経営面からは利用しづらい品種でした。

東京うこっけいは、育種改良により産卵能力を飛躍的に向上(年間約190個)させた烏骨鶏群で、都市養鶏の直売等で活用されています。



東京うこっけいヒナ

## トウキョウX



## 開発と維持管理

トウキョウXは「おいしさ」を追求して開発された系統豚で、北京黒豚・バークシャー・デュロックという肉質に優れる3品種の豚を掛け合わせて作出された合成種です。

一般の肉豚が交雑により生産されるのと異なり、トウキョウX同士を掛け合わせて生産されます。青梅畜産センターでは近親交配にならないよう、血縁関係に配慮しながら管理を行っています。



## 生產品の特徴

トウキョウXの肉はブランド豚「TOKYO X」として流通しています。肉色は**淡紅色**で**脂肪交雑**に優れ、きめの細かい柔らかな肉質が特徴です。



## とうきょう元気堆肥



## 有機農業堆肥センターの役割

有機農業堆肥センターは、環境保全型農業を推進するため、「土づくり」に不可欠な優良堆肥を生産しています。

ここで生産された堆肥は、東京都エコ農産物認証農家等、できる限り化学合成農薬や化学肥料を使わない環境に配慮した農業を実践する生産者をはじめ、家庭菜園を楽しむ都民等に広く提供され、都市農業の振興に貢献しています。

## 生産工程

### ① 一次発酵

家畜糞と剪定枝チップを混合し、自走式攪拌機で約20日間攪拌します



### ② 二次発酵

横型ロータリー式発酵槽で約20日間、毎日攪拌します



### ③ 夾雑物の除去

ふるい装置にかけた後、約20日間、後熟処理を行います



### ④ 完熟堆肥の完成

トラック積みと袋詰めでの販売を行っています



## 試験研究



## 生産性向上技術の開発

都内畜産農家の限られた生産基盤での生産性向上をめざし、暑熱に対応した飼養管理方法や効率的な家畜繁殖技術の開発に取り組んでいます。



## ブランド畜産物の支援

東京ブランド畜産物の品質維持、高付加価値化のための技術開発や安定した種畜・種鶏の系統維持を図るための試験研究を行っています。



## 畜産環境対策

畜産環境問題を低コストかつ効率的に解決するため、衛生害虫の防除や臭気を抑制する技術の開発等を行い、都市と調和した畜産経営を支援します。



## 畜産の普及啓発活動



## 活動内容

青梅庁舎では、年に2回「家畜ふれあいデー」を開催して、搾乳体験など家畜とのふれあいの場を設けています。動物の息遣いや肌の温もりを感じ、子どもたちに命の大切さや自然に対する感受性をはぐくんでもらうことを目的としています。

東京都の開催する各種イベントにも参加し、東京の畜産物等を積極的にPRしています。

## 情報発信について

東京都農林水産振興財団では、公式WEBサイトのほか、公式Twitterアカウントや公式Youtubeチャンネルを活用して様々な情報発信を行っています。



WEBサイト

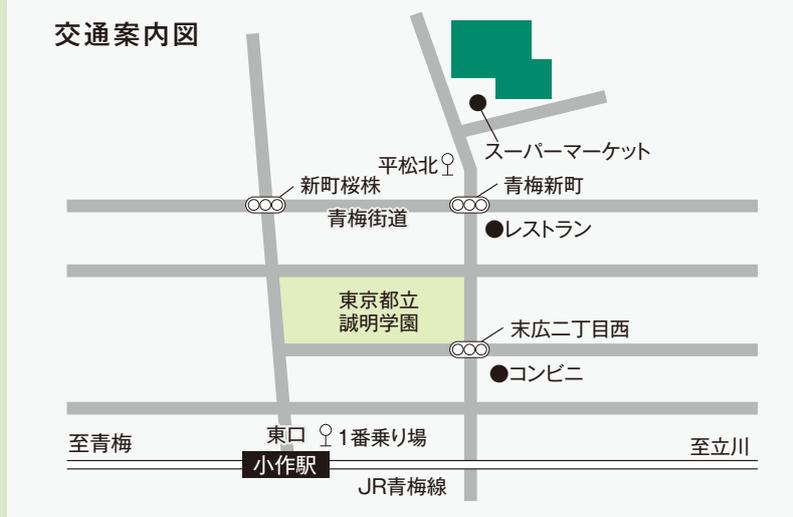


Youtube



Twitter

## 交通案内図



### ■ 電車でお越しの方

- JR青梅線小作駅東口より
- 西東京バス 三ツ原循環西回りで10分  
「平松北」下車徒歩3分
- 駅前タクシー利用 約8分
- 徒歩約25分(東北約2.5Km)

### ■ 車でお越しの方

- 圏央道青梅インターより5分
- 青梅街道青梅新町交差点より3分

## 見学される方へのお願い

- ・防疫上、犬や猫などの動物を伴っての見学はできません。
- ・見学にお越しの際は、必ず受付で受付票に氏名等の連絡先を記入してください。  
※鳥インフルエンザ等発生時の連絡に使用します。
- ・指定された見学場所以外は立入らないでください。
- ・場内では禁煙にご協力ください。
- ・当庁舎では食肉や卵、牛乳等の販売は行っていません。  
※家畜伝染病対策等、防疫上の理由により、見学のを中止することがあります。

## (公財) 東京都農林水産振興財団 青梅庁舎

〒198-0024 東京都青梅市新町6-7-1

青梅畜産センター

TEL:0428-31-2171 FAX:0428-31-8474

農林総合研究センター 畜産技術科

TEL:0428-31-2171 FAX:0428-31-8474

有機農業堆肥センター

TEL:0428-33-3997 FAX:0428-33-3998